

平成27年度社会福祉法人美生会
事業報告書

社会福祉法人美生会 事業報告

社会福祉法人美生会は、平成 27 年度は「ヴィラージュ川崎」は 4 年目、「ヴィラージュ虹ヶ丘」は 2 年目を迎えました。また、開設準備のために、主担当チームを編成して力を注いできた結果、平成 28 年 5 月には、高津区久末に「看護小規模多機能型居宅介護よろこび久末」が開設されることで、併せて 3 つの社会福祉施設を運営することになりました。

ヴィラージュ川崎、ヴィラージュ虹ヶ丘の両施設においては、事業計画に基づいた実践の結果、稼働率の面など、残念ながら必ずしも目標を達成できたとは言えず、いくつかの課題を抱えている実情があります。

5 年目を迎える法人として、法人の存在の意味と価値を考えた場合、社会的に求められる役割を果たすことを念頭に置くとともに、健全で発展的な施設運営を行っていくことです。そのために平成 28 年度は、「安定的な事業運営の工夫に基づいた実績の向上」、「人材確保と育成」が必須のことと捉え、この二点を課題として取り組んでいきます。

また、この間に培ってきた力をもって、施設・在宅の双方のサービスを必要とする方々に働きかけ、サービスや事業の工夫をしていくことで多くのご利用につなげ、お一人おひとりの支援をさせていただきます。そのためには、職員の専門性を向上させていくことに力を注いで参ります。

ヴィラージュ川崎事業報告

目 次

施設全体総括	．．．．．6
1 特別養護老人ホームヴィラージュ川崎（従来型・地域密着型）	
(1) 稼働率	．．．．．8
(2) 主な取り組み	．．．．．8
(3) 今後の課題	．．．．．9
(4) 医療的状況	．．．．．9
(5) 施設入居者の状況	．．．．．10
(6) ボランティアの受け入れ状況	．．．．．11
(7) 施設行事	．．．．．12
2 ヴィラージュ川崎短期入所生活介護事業所	
(1) 稼働率	．．．．．13
(2) 取り組み	．．．．．13
(3) 今後の課題	．．．．．13
3 ヴィラージュ川崎デイサービスセンター	
(1) 稼働率	．．．．．14
(2) 取り組み	．．．．．14
(3) 今後の課題	．．．．．14
(4) 利用者の状況	．．．．．15
(5) 1日の平均利用者数の推移	．．．．．16
(6) 活動内容	．．．．．16
4 栄養科	
(1) 取り組み	．．．．．17
(2) 今後の課題	．．．．．17
5 事務	
(1) 取り組み	．．．．．18
(2) 今後の課題	．．．．．18
6 施設全体の取り組み	．．．．．19～24
(委員会活動・内部研修・外部研修・会議・事故報告)	



- 施設全体総括
- 特別養護老人ホーム（従来型・地域密着型）
- 短期入所生活介護事業所
- デイサービスセンター
- 栄養科
- 事務
- 施設全体の取り組み（委員会・研修活動・会議・事故報告）

《ヴィラージュ川崎事業報告》

施設全体総括

平成 27 年度、ヴィラージュ川崎は 4 年目に入る時期に当たりました。
通常 1 期は 3 年を括りにしており、1 年目は耕しと種まきの時期、2 年目は芽が出て定着する時期、3 年目は実が生り安定し、更なる成長する時期と捉えています。

平成 27 年度のヴィラージュ川崎は、1 期が終了し 2 期目に入った時期です。そこから考えると、今までの実績を土台にして、更なる成長を目指して「新たな変革と前進の機会」と捉えて、主に五つの課題解決のために取り組んできました。

- ・一つ目の課題は、特養の中に「広域型・多床室」と「地域密着型・ユニット」の 2 事業が存在していたことと、その上に建物の構造上、その 2 事業が同一フロアに配置されていたことです。その結果、夜勤配置が 86 名に対し 7 人配置せざるを得ず、人員配置がとても非効率なものとなり、人件費比率がとても高い状況にならざるを得なかったことです。
- ・二つ目の課題は、上記の状況から 2 事業間で混在した勤務が組まれていたことです。
また、このことによって、多床室とユニットにおけるケアの確立が曖昧になってしまい、本格的なユニットケアの実践が立ち遅れていたことです。
- ・三つ目の課題は、ショートが単独で 1 階に配置されていたことと、6 名の利用者という小規模でも、サービスの内容から 6 名の職員の配置はせざるを得ず、毎年赤字が生じていたことです。
- ・四つ目の課題は、デイサービスの稼働率も低迷していたことです。
- ・五つ目の課題は、職員は本来的には力を持っているが、その力を発揮しきれていないことです。
また、専門職としての意識や主体性や積極性、創意工夫が乏しい面が見られたり、根拠を意識したケアが確立されていないことが見受けられました。

このように、主な課題は 5 点あり、平成 27 年度は、この課題解決の取り組みについて検討、試行、検証してきました。まさに「新たな変革と前進の機会」と捉えて実践してきました。

- ・一つ目は、改築工事による事業の転換。
- ・二つ目は、2 事業別の勤務体制の確立。(特養における 2 事業のチーム化)
- ・三つ目は、ショート職員配置の減数。居宅介護事業所へのアプローチと営業の強化。
- ・四つ目は、相談員の投入による、居宅介護事業所へのアプローチと営業の強化。
- ・五つ目は、多床室の個別ケアの意識化。
ユニットケアの推進の目標の明確化。
チームで取り組む体制づくり。
専門性を高めていく環境づくり。(内部研修はもとより、外部研修への参加の機会を増やし、個々の職員の専門性とケアの質の向上)

上記の取り組みの結果、徐々にではありますが、各事業共に年度末に近づくにつれて成果が出始めています。

1 特別養護老人ホームヴィラージュ川崎（従来型・地域密着型）

（１）稼働率

従来型が稼働率目標 95.5%に対して 93.6%、地域密着型が稼働率目標 95.5%に対して 94.5%、全体の平均稼働率は94.1%にとどまってしまいました。

主な要因としましては、1 点目は、重度化による入院のために、長期にわたる事例が続いたことにあります。（平均4.1名／日）

2 点目は、年度当初に退居者が続出した際、入居プロセスに手間取り、次の入居者を迎えるまでの期間が必要以上にかかってしまったためです。

その後、1 点目については、早期の発見と対応により重度化を予防したり、協力病院と協議の上、退院見込みなどの状況把握を実施して、入院期間の短縮につなげました。

2 点目は、入居申し込み者に事前訪問や、入退居判定委員会での入居決定後、直ちに健康診断書、診療情報提供書を主治医からもらえるようにして、入居までの期間短縮に努めた結果、ご家族の事情等で難しいこともありますが、入居までの日程の短縮化につなげることができました。

（ア）従来型（定員56名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
延べ人数	1521	1463	1547	1626	1658	1626	1637	1563	1673	1684	1515	1673	14186
平均入居者数	50.7	47.2	51.6	52.5	53.5	54.2	52.8	51.1	54.0	54.3	54.3	52.2	52.4
稼働率 (%)	90.5	84.3	92.1	93.7	95.5	96.8	94.3	93.0	96.4	97.0	93.3	96.4	93.6

（イ）地域密着型（定員24名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
延べ人数	684	700	669	678	730	704	702	679	709	684	662	701	8302
平均入居者数	23.3	23.6	24.0	23.8	24.0	24.0	24.0	23.7	23.6	24.0	24.0	23.5	23.8
稼働率 (%)	95.0	94.1	92.9	91.1	98.1	97.8	94.4	94.3	95.3	91.9	95.1	94.2	94.5

○ 特別養護老人ホームヴィラージュ川崎全体の年間稼働率は平均94.1%。

（２）主な取り組み

- ① 業務の見直し。（7.5時間勤務）
- ② 個別ケアの意識化と推進。
- ③ 入浴体制の検証。
- ④ 広域型と地域密着型のシフトの区分。
- ⑤ 看取りケア実施。（病院との連携により本来的な看取りケア体制の構築）
- ⑥ 外部研修参加の強化。（新たな知識・技術の導入、意識改革）
- ⑦ 指導体制の検討。（リーダー制から主任制に変更して役割の明確化）
- ⑧ 看護師の担当制。
- ⑨ 医務に関するマニュアルの検証と作成。
- ⑩ 入居プロセス改善。

(3) 今後の課題

- ① サービス内容の変更に伴う現場体制づくり。(ショートが多床化・特養個室ユニット増床)
- ② ユニットケアの構築と個別ケアの推進。
- ③ 不適切なケアや事故の防止。
- ④ 記録、委員会活動、報連相と連携の強化。

(4) 医療的状况

ア 入院等の状況 (平成28年3月31日現在)

全体として、入居者の慢性疾患の悪化等による状態の低下や重度化が進み、昨年度より149件増加しています。

年度当初は長期入院者が数名おりましたが、早期発見、早期対応を行うとともに、協力病院との連携・協力体制を強化した結果、長期入院が減少してきました。

(ア) 従来型

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
入院・外泊 延べ日数	109	190	117	107	78	44	99	102	53	52	100	62	1,113

(イ) 地域密着型

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
入院・外泊 延べ日数	16	32	51	59	13	16	42	42	22	60	34	28	415

- 入院先はたま日吉台病院が81%。他の医療機関は19%。
- 平均入院日数は26.8日。1日あたりの入院者は4.1人。

イ 受診状況 (平成28年3月31日現在)

(ア) 従来型

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
受診数	21	14	28	30	47	48	32	21	35	18	23	17	334

(イ) 地域密着型

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
受診数	7	15	12	4	11	9	18	13	12	12	17	17	147

- 受診先はたま日吉台病院が39%。他の医療機関は61%。
- 他医療機関は整形外科、眼科、皮膚科、耳鼻科、歯科、脳神経外科等。
- 主な受診・入院の要因は、心疾患、脳梗塞、脳出血、腎盂腎炎等。

(5) 施設入居者の状況

ア 区別入居者数（平成28年3月31日現在）

(ア) 従来型

	男	女	計
川崎区	0	3	3
幸区	0	2	2
中原区	1	1	2
宮前区	2	2	4
高津区	2	2	4
多摩区	12	26	38
麻生区	1	0	1
川崎市以外の市町村	2	0	2
計	20	36	56

(イ) 地域密着型

	男	女	計
川崎区	0	0	0
幸区	0	0	0
中原区	0	0	0
宮前区	1	1	2
高津区	1	1	2
多摩区	5	15	20
麻生区	0	0	0
川崎市以外の市町村	0	0	0
計	7	17	24

イ 入退居の状況（平成28年3月31日現在）

(ア) 従来型

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
入居	1	4	2	1	0	1	0	3	1	0	0	1	14
退居	4	3	0	1	1	0	1	2	1	0	1	0	14
月末在籍	53	55	56	56	56	56	56	56	56	56	55	56	

(イ) 地域密着型

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
入居	1	1	0	1	1	0	0	0	1	0	0	2	7
退居	2	0	0	2	0	0	0	1	0	0	0	2	7
月末在籍	23	24	24	23	24	24	24	23	24	24	24	24	

ウ 要介護度別入居者数（平成28年3月31日現在）

(ア) 従来型

区分	要介護度1	要介護度2	要介護度3	要介護度4	要介護度5	計	平均介護度
男	0	0	2	11	7	20	4.3
女	0	2	10	15	9	36	3.9
計	0	2	12	26	16	56	4.1

(イ) 地域密着型

区 分	要介護度 1	要介護度 2	要介護度 3	要介護度 4	要介護度 5	計	平均介護度
男	0	1	2	2	2	7	3.7
女	0	2	5	6	4	17	3.7
計	0	3	7	8	6	24	3.7

○ ヴィラージュ川崎の入居者全体の平均要介護度は 3.90。

エ 年齢別分布（平成 28 年 3 月 31 日現在）

(ア) 広域型

年 齢	男	女
60～69	4	1
70～79	4	8
80～89	11	12
90～99	1	12
100～	0	3
合 計	20	36

(イ) 地域密着型

年 齢	男	女
60～69	0	0
70～79	1	3
80～89	3	10
90～99	3	4
100～	0	0
合 計	7	17

○ 入居者全体の平均年齢は 85.1 歳。100 歳以上の方が 3 名で、最高齢者は 101 歳。

オ 負担限度額認定の段階別利用者数（平成 28 年 3 月 31 日現在）

(ア) 従来型

負担限度額 人数	第 1 段階	第 2 段階	第 3 段階	第 4 段階	計
	3	30	9	14	56

(イ) 地域密着型

負担限度額 人数	第 1 段階	第 2 段階	第 3 段階	第 4 段階	計
	0	12	4	8	24

(6) ボランティアの受入れ状況

団 体 名	内 容
稲田中学校	福祉委員会、チアダンス部、華道部
折り紙ボランティア	折り紙指導
かのん	歌のボランティア
ポピーダンス	歌、踊り

(7) 施設行事 (特養・ショート)

月	施 設 行 事		衛 生・健 康
4 月	春の運動会 (風船バレー)	10 月	ハロウィン仮装 *外食 (とんでん)
5 月	菖蒲湯 緑化センターへ出掛けよう *外食 (とんでん)	11 月	秋の運動会 *外食 (とんでん)
6 月	映画鑑賞会 *外食 (とんでんとドライブ)	12 月	ゆず湯 クリスマス会 *出前 (お寿司) 和太鼓演奏鑑賞
7 月	フロア対抗カラオケ大会 七夕飾り *外食 (ガスト)	1 月	お正月行事 (書初め・カルタ・福わらい 等)
8 月	夏祭り & 花火大会 *外食 (とんでん)	2 月	節分
9 月	敬老会	3 月	お花見

- *印の外食や出前に関しては、27 年度に新たに取り入れたレクリエーション。
参加者は、ご利用者が 34 名、ご家族が 28 名でした。

2 ヴィラージュ川崎短期入所生活介護事業所

(1) 稼働率

平成27年度は稼働率が、8月以降2月まで80%台に低下したものの、平均稼働率は88.5%となり、前年度より1.5%上昇した結果になりました。

特養や老健に入所、長期入院等の利用により、契約解除が15名に至ったこと、更にその多くがリピーターのご利用者だったことが低下の要因と考えています。

一方、新たに20名のご利用者の方々から契約をいただきました。契約当初は単発のご利用に留まっていたましたが、慣れるにつれて、リピーターとしてのご利用につながりつつあり、3月は101.1%に至りました。

職員の配置を1名削減したことで、日中の配置が2名となりましたが、ショートスタッフや他セクションのサポートにより、入浴や送迎の対応を工夫した結果、対応に支障を来すことはほとんどありませんでした。

今後も、新契約者との関係性を構築して、安定的なご利用をしていただけるよう努めます。

延べ利用人数と稼働率（平成28年3月31日現在）

要介護	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要介護者	145	179	170	179	157	162	149	148	149	151	154	184	1927
要支援2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	4
合計	145	179	170	179	157	162	149	148	149	151	154	188	1931
稼働率	80.6	96.2	94.4	96.2	84.4	90.0	80.1	82.2	80.1	81.2	88.5	101.1	87.9

(2) 取り組み

- ① 午前退所や午後入所の利用案内も積極的に紹介
- ② 空床状況のファックスを適宜居宅介護事業所に送付。空床情報による利用依頼が増加。
- ③ アットホームな雰囲気をつくり、個々の要望に対して可能な限り対応。
- ④ 個々のご利用者に応じたレクリエーション、活動取り入れて実施。
- ⑤ 相談員不在時でも、ご利用調整ができる工夫。

(3) 今後の課題

- ① 今後、個室ユニット型から多床型への変更の説明。
- ② 新たな契約者の獲得。
- ③ 特養職員に対するショートのサービスの理解。
- ④ 既存のご利用者にとって、環境の変化に対する配慮と工夫。
- ⑤ 多床室のご利用者でショートの双方が、居場所と感じていただける関わり方の工夫と配慮。

3 ヴィラージュ川崎デイサービスセンター

(1) 稼働率

平成 27 年度は、稼働率目標を 73%（1 日利用者数 22 名）に設定しましたが、77.2%（23.2 名）の実績となりました。前年度からは 13.3%の伸びとなっています。

業績向上の要因は、居宅介護支援事業所に対する積極的な営業、モニタリングと評価のリターン等のアプローチ、自事業者内の介護計画の作成と介護の質の向上に努めてきました。

また、医療的ニーズをはじめとするご利用ニーズに対して、対応の工夫をして可能な限り受け入れてきたことが挙げられます。

しかし、稼働率の数値的には決して満足するものではなく、次年度は目標値を上げて 85%近くを目指して、達成していくために更なる力を尽くしたいと考えています。

稼働率（平成 28 年 3 月 31 日現在）

月	利用延 人数	1 日平均	稼働率 (%)	月末登録者数	開始 利用者数	終了 利用者数
4 月	583	22.4	74.7	80	1	1
5 月	577	22.2	74.0	75	0	4
6 月	580	22.3	74.4	75	1	1
7 月	618	22.9	76.3	75	1	2
8 月	604	23.2	77.4	75	2	2
9 月	581	22.3	74.5	74	0	2
10 月	599	22.2	74.0	77	9	4
11 月	572	22.9	76.3	77	2	2
12 月	592	23.7	78.9	80	4	1
1 月	572	23.8	76.3	81	2	1
2 月	627	25.1	83.6	86	7	2
3 月	672	25.0	83.0	82	3	7
年	7177	23.2	77.2	937	32	29

(2) 取り組み

- ① 介護支援専門員に対して、サービス提供後の評価を書面にて通知。
- ② 根拠のある支援のために全職員で支援評価、アセスメント、モニタリングを実施。
- ③ 職場の衛生環境の改善のため、役割の担当制を実施。
- ④ ご利用者に楽しんで頂くため、イベントの工夫。

(3) 今後の課題

- ① 利用者の増加により、一人ひとりのケアの質が低下の防止。
- ② 継続して様々なご利用者のニーズに応えていくための工夫と姿勢を重視。
- ③ 適切なケアを行い、ご利用者の継続的な利用と契約者増。

(4) 利用者の状況

ア 介護度別利用実人数 (平成 28 年 3 月 31 日現在)

	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
男性	3	5	12	5	6	4	3	39
女性	9	15	28	18	12	4	8	95
合計	12	20	40	23	18	8	11	134

イ 介護度別利用延べ回数 (平成 28 年 3 月 31 日現在)

	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
男性	27	348	736	180	298	338	224	2189
女性	281	585	1992	789	646	221	419	4988
合計	308	933	2728	969	944	559	641	7177

ウ 地区別登録者数 (平成 28 年 3 月 31 日現在)

地区名	人数	利用回数	地区名	人数	利用回数
宿河原	40	2660	久地	4	220
登戸	20	716	登戸新町	2	77
堰	3	405	宮前区菅生ヶ丘	2	108
その他	62	2996			

エ 年齢別 (平成 28 年 3 月 31 日現在)

	男性	女性	合計
40歳～59歳	0	1	1
60歳～69歳	3	1	4
70歳～79歳	6	6	12
80歳～89歳	10	34	44
90歳以上	5	14	19

オ 平均年齢 (平成 28 年 3 月 31 日現在)

	男性	女性	全体
平均年齢	80.8	85.5	81.8
最高年齢	93	102	
最低年齢	62	48	

(5) 1月当たりの1日平均利用者数の推移

ア 月別中止者理由延べ人数（平成28年3月31日現在）

	入院	死亡	老健入所	その他	特養入所	合計
4月	1	1	0	0	0	2
5月	1	0	0	2	1	4
6月	0	1	0	0	0	1
7月	0	0	0	2	0	2
8月	0	0	0	2	0	2
9月	0	0	0	1	0	1
10月	0	1	1	2	0	4
11月	1	0	2	1	0	2
12月	0	0	1	1	0	1
1月	0	0	0	0	1	1
2月	0	1	0	1	0	2
3月	0	3	0	2	2	7
年計	3	7	1	14	4	29

(6) 活動内容

月	施設行事		施設行事
4月	昔懐かしい遊びとおやつ	10月	川崎市老人ホーム作品展 敬老会
5月	菖蒲湯 工作（ペン立て）	11月	手作りおやつ
6月	手作りおやつ	12月	クリスマス会 ゆず湯
7月	七夕	1月	書初め 新年会（屋上初詣）
8月	納涼祭 流しそうめん	2月	節分
9月	敬老会	3月	手作りおやつ ひな祭り

4 栄養科

(1) 取り組み

- ① 食材費の予算と比較しながら適正な献立作成。(食材費管理)
- ② ご利用者と共におやつ作り。
 - ・今までデイサービスのみの取り組みだったが、入居のご利用者にも楽しんで頂いた。
 - ・生活リハの一環として、介護職と連携して取り組んできた。
- ③ 事故予防。(異物混入、誤配膳)
 - ・目視、指さし確認、ダブルチェック等により予防に努めてきた。
- ④ 食事量低下のご利用者への食事提供の工夫。(ハーフ食)
 - ・認知症や機能低下により食事を全量召し上がる事が出来なくなった利用者に対して、栄養価は低下させずに、全体量を半量にした食事により無理なく摂取していただく。
 - ・半量にした分に対して栄養補助食品(エブリッチ)の活用。
- ⑤ 行事食の提供。

	行事食・おやつづくり		行事食・おやつづくり
4 月	春の洋食フェア ～春の食材を多く使用して彩りよく～	10 月	秋の洋食フェア ～旬の食材を使用し、秋の深まりを感じる～ *おやつレク (パンケーキ)
5 月	初夏の和食フェア ～旬の食材を使用し、季節を感じていただく～	11 月	握り寿司 ～皆さま、大喜びのお寿司行事～
6 月	井定食 ～かつ煮井で定食気分を感じていただく～	12 月	クリスマス ～定番チキンと洋食～ *おやつレク(たこ焼き)
7 月	土用丑の日 (うなぎ) ～スイカ、うなぎで夏の到来を知る～	1 月	おせち ～三箇日はすき焼き、刺身で豪華に～
8 月	中華ランチ ～スタミナ全開で夏に勝てるように～	2 月	恵方巻き ～3 色太巻きでカラフル～
9 月	長寿御膳弁当 ～和洋折衷に長寿を願う～	3 月	ひなまつり ～手まり寿司でお祝い～ *おやつレク(プリンアラード)

(2) 今後の課題】

- ① 安全な食事の提供。
- ② ソフト食導入。
- ③ ユニットケアへの対応。
- ④ チーム協働による栄養ケアマネジメントの強化。(個人のニーズに合わせた食事の提供工夫)
- ⑤ 食材費の管理。(質を下げない、食材の値上げを想定)
- ⑥ 補助食品の提供により、機能低下や重度化を予防し、心身の状態を維持。

5 事務

(1) 取り組み

① 経費削減

- ・物品発注を毎週1回から、2週間に1回に変更。在庫数から発注個数を算出する事で、余計な発注を減らす取り組みの意識づけの第一歩となった。
- ・洗濯契約業者の変更を検討し平成28年4月から実施。月額約260,000円減見込み。
- ・事務服リースを廃止し、月額800円の被服費支給に変更を検討し、平成28年4月から実施。月額約9,570円減見込み。
- ・介護職員の制服リースを廃止し、月額800円の被服費支給に変更。
リースは4年間解約できず、無駄な経費を削減する。
- ・経理処理の見直しをし、ネットバンクを活用して銀行へ出向く手間を省いた。また、拠点区分毎の通帳からの振替に整理したことで、作業効率アップにつながった。

② 地域交流

- ・夏祭りに西町町会子供会のお子様を招待し、ゲーム等を楽しんで頂いた。

③ 作業効率のアップ

- ・書式や形式の見直し、作業効率のアップ。
- ・振込から口座振替へ変更し、振込手数料削減。

(2) 今後の課題

① 経費削減

- ・各部署への経費削減の意識づけとそれに伴う、業務の見直し。
(1年間の取り組みを各部署の年間表彰も検討)
- ・ゴミの分別。資源ごみは回収料金がからないので、可燃ごみと分別を周知徹底。

② 事務は現場の土台としての役割を果たす為に、現場の状況を把握し、情報共有をすることで、お互いの役割を理解、協力していく。

③ 地域交流

- ・夏祭りの招待の範囲を広げていく(西町町会子供会・宿河原幼稚園等)
- ・子供たちと交流イベントの企画(敬老会・ハロウィン(仮装))

ア 職員採用・退職者(平成28年3月31日現在)

	介護	医務	事務	栄養	合計
入職者数	5	0	0	0	5
異動入職者数	1	3	1	0	5
退職者数	14	2	2	0	18
異動退職者数	1	1	3	1	6

イ 介護職員資格保有者(平成28年3月31日)

	特養広域型	特養地密型	ショート	デイサービス	計
介護福祉士	14	6	6	3	29
実務者・初任者	3	7	0	1	11
ヘルパー2級	9	4	0	5	18
合計	26	17	6	8	57

6 施設全体の取り組み

(1) 委員会活動

委員会名	実施日	内 容
研修委員会	第一火曜日	[実施したこと] ・内部研修の担当者の割り振り、計画、企画のサポート（進捗状況の確認） ・実施時のアンケートの集計、実施内容の反省 [今後の課題] ・外部研修の報告の機会をつくる ・外部研修の計画的な参加の検討（希望者にも配慮）
事故防止委員会	第二火曜日	[実施したこと] ・事故、ヒヤリハットの集計 ・その月の各セクションで発生した事故について検討 [今後の課題] ・事故検討と共に分析を深めるとともに、再発防止策、周知徹底、評価を強化していく（分析方法の検討も含め） ・ヒヤリハットの重視
身体拘束廃止委員会	第二火曜日	[実施したこと] ・各フロアにおいて身体拘束ではないかと思われる事例の報告と検討 ・身体拘束や行動制限を行わない為の取り組みの方法 ・スピーチロックの防止 [今後の課題] ・スピーチロックの防止と適切な声掛け方 ・不適切なケアの防止とその意識づけの推進
感染予防対策委員会	第二火曜日	[実施したこと] ・インフルエンザ、ノロの予防策と罹患した場合の対応策の周知徹底（必要物品の常備体制含む）、研修 ・市内、又は全国の感染症全般の発症状況を調べ情報提供 ・食中毒の予防等も含めご家族への理解、協力依頼 [今後の課題] ・感染症が集団発生した場合の対応策が不十分 ・新型ノロは現存のキットでは検出できない ・ご家族持込みの食事、おやつに対する食中毒の予防
医療安全・褥瘡委員会	第二月曜日	[実施したこと] ・褥瘡の状態調査と褥瘡改善方法の検討と実施 ・服薬事故の把握と検証 [今後の課題] ・当たり前の排泄ケア、基本的な排泄ケアを実施していく ・そのことによって褥瘡は無くせるという理解の強化 ・褥瘡はつukらないという決意で実践 ・褥瘡の要因を多面的に、個別的に分析、検討

排泄・陰洗改善委員会	第三火曜日	[実施したこと] ・陰洗の方法の検討と陰洗マニュアル作成 ・尿側の実施とパットの検討 [今後の課題] ・排便コントロールの工夫、検討（下剤に頼らない） ・当たり前の排泄ケア、基本的な排泄ケアの推進 ・尿側の結果、排泄ケアのタイミングの検討
入浴委員会	第四火曜日	[実施したこと] ・ご利用者の入浴日、形態の見直し（特浴・チェア・個浴） ・入浴担当者の役割分担 ・入浴用品の準備、購入、後始末のルール化 ・入浴体制見直しの検討 [今後の課題] ・入浴体制の変更の検討（90名のご利用者に対応） ・入浴方法の検討 ・浴室や入浴用品等の環境整備（チェア浴の不具合の改善）
食事委員会	第一金曜日	[実施したこと] ・口腔ケアの見直しと用品の管理 ・おやつレク ・食事摂取、水分補給が不十分なご利用者の工夫、検討 [今後の課題] ・口腔ケアマニュアルの作成と統一 ・栄養会議との合同開催 ・ユニットケアにおける食事の提供方法の検討 ・口腔体操の工夫、食事時の良い姿勢の保持
行事委員会	第一木曜日	[実施したこと] ・年間の行事の計画、準備、企画、実施 [今後の課題] ・行事委員のみではなく、他職員にも役割分担して、施設全体で実施していく ・日々の楽しめるミニレクリエーション
物品管理委員会	隔月、不定期	[実施したこと] ・各階ごとの物品使用のバラつきを検討 ・年度初めの在庫確認 ・物品発注方法の統一（物品発注書作成・2週間1回注文） ・物品管理（物品管理表作成） ・間接業務確認（間接業務確認表作成） ・リネン類（リネン庫整理、リネンの在庫、注文数検討） [今後の課題] ・何のために何をどの位使用するのかを明確化 ・物品の管理を継続

○ 各委員会共に、月一回実施。

○ 委員は特養、ショート、デイサービスより選出し、施設全体の委員会として実施。

(2) 内部研修の取組み

実施日	内 容	講 師
4月27日、28日、30日	アセスメント	大西（ケアマネ）
5月25日、26日、28日	緊急対応について	桑原（医務室） 山田（相談員）
6月22日、23日、25日	事故防止・身体拘束廃止の取り組み	辻（委員会） 船橋（委員会）
7月27日、28日、30日	食中毒	大石（栄養科）
8月24日、25日、27日	記録の残し方	井原（2階介護）
9月24日、28日、29日	感染症対策① ノロウイルス・インフルエンザ	牧野（医務室）
10月27日、28日、30日	感染症対策② ノロウイルス・インフルエンザ	桑原（医務室）
11月23日、24日、26日	事故防止・身体拘束廃止の取り組み	辻（委員会） 船橋（委員会）
12月21日、22日、24日	ホスピタリティー（接遇）	石原（4階介護）
1月25日、26日、28日	排泄介助	橋本（ショート）
2月23日、24日、26日	高齢者の虐待防止	一ノ瀬（デイ）
3月28日、29日、31日	褥瘡について	松本（3階介護）

(3) 外部研修

	研修内容	参加者
4月	人事労務管理担当者研修（基礎編）	手塚・三浦
	行事食・栄養ケア計画作成研修	大石
5月	介護保険施設担当看護研修Ⅲ	桑原
	摂食・嚥下障害の評価と訓練の実践	大石
6月	ソフト食調理実習会	秋山・高橋
	記録の書き方	新井・佐藤・井原、森上
	高齢者における栄養管理の在り方	安富
	介護保険施設等における看護管理とリーダーシップ	桑原
	ユニットリーダー研修	前田
	認知症の理解（ひもときシート）	辻、山本、石原、内海、藤田、 加藤
7月	日本人の食事摂取基準の実践と運用	大石
	かながわ高齢者福祉研究大会	原、井原

8月	川崎市マイナンバー制度事業者向け説明会	手塚、鈴木
9月	認知症の基本的理解	今井、三上、原田、澤村
	認知症高齢者の医学的理解	井原、池原、船橋、
	認知症高齢者の心理的理解	神田、辻、高野
	キャリアパス研修（中堅職員）	辻、石原、井上
	医療的ケア教員講習会	木下
	個別ケア実践ヒント研修会	井原
10月	キャリアパス研修（管理職）	神田
	社会福祉法人新会計基準の理解	石嶋
11月	食中毒から身を守ろう	大石
	介護職実践セミナー	高橋、伊藤
	生活の場における摂食嚥下と食支援	大石
	安全な介護技術	中村、辻
	介護保険施設等看護研修Ⅰ	牧野
12月	シーティングの基礎知識と実践	山本、松本
	個室ユニットだからできる生活環境づくり	井原、神田
1月	ケアの本質を考える 尊厳を守る支援とは	川崎、手塚
	エンドオブライフを意識した看取りケア体制の構築	木下
	病院ではない看取りケア	長谷川
2月	苦情を前向きに捉える	加藤、辻
	社会福祉法人の決算	石嶋
	良い先輩になる為の現場で使えるスーパービジョン	辻、大西
3月	地域包括システムの構築と総合相談の事業展開	鈴木
	最期まで口から食べることを支える	大石
	川崎市老人福祉施設研究発表会	森上、今井、高野
	ユニットケアにおける24時間シート	加藤、竹内
	チームワークとリーダーシップ	原、井原
	成年後見の概論、意思決定支援に向けて	鈴木
	ユニットリーダー研修	森谷、井上
	プレリーダー研修	原田、井原

（４）各種会議

①部門会議

日 時	・第4金曜日 15:00～
機 能	・ヴィラージュ川崎の各部門の運営に関して協議・検討して、方向性を出したり決定したりする
参加者	・施設長、中溝課長、介護長、特養相談員、ケアマネ、デイサービス相談員、ショート相談員、栄養科管理栄養士、医務室看護主任、
使用様式	・月次報告シート（共有ファイルの部門会議のフォルダーに保管）

- 部門会議の内容は、施設内の課題の協議のみではなく、美生会の施設長会議の内容、方針も伝達し、周知徹底する。

②各セッション会議

日 時	・各自会議体が設定 (月1回)
機 能	・部門会議の内容を下し、各セッションに伝達し、施設の方針等を周知徹底。
参加者	・各セッション毎の課題を解決するために協議、検討し方向性を導き、解決のための合意形成を行い、取り組みを具体化する場
	・特養主任会議 (介護長) ⇒主任・副主任 (既定のシートを活用)
	・デイサービス会議 (相談員) ⇒デイサービス職員
	・ショート会議 (相談員) ⇒ショート職員
	・医務室会議 (看護主任) ⇒看護職員
	・相談員会議 (相談員) ⇒相談員・ケアマネ
	・栄養科会議 (管理栄養士) ⇒栄養科職員
	・事務会議 (課長・副主任) ⇒事務職員

③特養会議

日 時	・各会議体が設定
機 能	・施設長会と部門会議の決定を伝達、現場からの課題をまとめ伝える
参加者	・各セッション毎の課題を解決するために協議、検討し方向性を導き、解決のための合意形成を行い、取り組みを具体化する場
	・多床室チーム (2階、3階、4階)
	・ユニットチーム (1階、2階、3階、4階)

- 各セッションや特養会議で出された課題は、部門会議や施設長会議に吸い上げて検討する。
- 各々の会議体が上下につながり、課題解決の為に機能していくことが重要と考えている。

(5) 感染症

今年度は、感染症の予防対策が功を奏し、ご利用者のインフルエンザやノロ等の感染症に関してはゼロでした。職員の罹患は1名のみでとどめることができました。

(6) 事故報告

ア 事故種類 (平成28年3月31日現在)

種類 \ 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
転落	4	2	8	3	8	3	1	5	1	3	9	5	52
転倒	2	6	6	2	7	2	1	5	4	3	9	3	50
誤嚥													
誤薬	6	6	4		1	4	2	4	2	5	3	1	38
異食・誤飲								1		2	1		4
表皮剥離	1	2	2	3	4	2	7	2	1	6	3	1	34
その他外傷	9	11	16	7	17	11	2	8	12	18	10	12	133
発見		4			2		11					3	20
合計	22	31	36	15	39	22	24	25	20	37	35	25	331

イ 事故発生場所（平成 28 年 3 年 31 日現在）

種類 \ 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合 計
居室	5	8	10	3	14	5	9	12	4	13	13	8	104
ベッド脇			1	1	1	1				1	4	1	10
浴室	2	1	7	4	5	3	7	3	4	4	3	5	48
トイレ	1	5	1	2	4	4	2	1	1		2	3	26
フロア	13	14	15	5	14	9	5	8	4	13	12	8	120
廊下	1	3	2					1					7
その他					1		1		7	6	1		16
合計	22	31	36	15	39	22	24	25	20	37	35	25	331

ウ 事故発生時間（平成 28 年 3 年 31 日現在）

種類 \ 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合 計
0 時～3 時			4		1			1				2	8
4 時～7 時	4	2	2	3	4		3	2	3	5	2	1	31
8 時～11 時	8	5	6	4	8	9	6	4	6	9	6	5	76
12 時～15 時	7	5	11	3	9	3	9	10	8	13	11	6	95
16 時～19 時	2	11	10	5	11	7	4	4	2	5	11	9	81
20 時～23 時	1	4	3		6	3	2			2	2	2	25
不明		4						4	1	3	3		15
合計	22	31	36	15	39	22	24	25	20	37	35	25	331

- 27 年度は、軽微な事故でも全てを報告することにしており、事故報告件数が 331 件。
- 事故の結果受診した件数は骨折 5 件、打撲 7 件、表皮剥離 3 件。
- 事故防止委員会において、発生した事故についての事例検討を実施していたものの、要因分析の不十分さから同じような事故や、同一ご利用者の事故が繰り返されていたこともありました。
また、最大限、事故を防止することに取り組んでいる中、明らかにヒューマンエラーによるものは（例えば誤薬等）、徹底して無くしていくことは可能と考えています。
- 28 年度は、委員会の中で事故の要因分析を強化して、危険予測に基づき、環境設定やご本人の心身状況に合わせた関わり方によって、同じような事故の再発防止を強化していきます。

ヴィラージュ虹ヶ丘事業報告

目 次

0 施設全体運営	
(1) 施設全体運営～総括	・・・2
(2) 施設全体運営	・・・3
(3) 施設全体運営（途中経過の一部）	・・・4
(4) 施設全体運営～委員会	・・・4
(5) 施設全体運営～会議	・・・5
(6) 施設全体運営～施設行事	・・・5
1 各事業概況	
(1) 地域密着型特別養護老人ホーム	・・・6
(2) 短期入所生活介護事業所	・・・7
(3) 看護小規模多機能型居宅介護（旧複合型サービス）	・・・8
(4) 訪問看護ステーション	・・・9
2 事業横断組織・機能概況	
(1) 栄養科	・・・10
(2) 医務室	・・・11
(3) 事務	・・・11
3 その他の活動、状況等	
(1) ボランティア受け入れ	・・・12
(2) ご対面	・・・13
(3) 広報活動	・・・13
(4) 地域連携	・・・14
(5) 地域交流スペースおよび施設駐車場の地域への開放	・・・14
(6) ラウンジ集（つどい）	・・・15

平成27年度 ヴィラージュ虹ヶ丘 事業報告

- 一. 当報告の構成
- 0. 施設全体運営
- 1. 各事業概況
 - (1) 地域密着型特別養護老人ホーム
 - (2) 短期入所生活介護事業所
 - (3) 看多機(看護小規模多機能型居宅介護の略)
※ 昨年度まで“複合型サービス”と称されていたもの
 - (4) 訪問看護ステーション
- 2. 事業横断組織・機能概況
 - (1) 栄養科
 - (2) 医務室
 - (3) 事務
- 3. その他の活動、状況等



当報告の構成

- ✓ 昨年度冒頭に立てました事業計画に基づき、PDCAの一環としてそれを振り返り、達成度を評価しました。
- ✓ あわせてその他、特記すべき事項、各種指標について記しております。

0. 施設全体運営

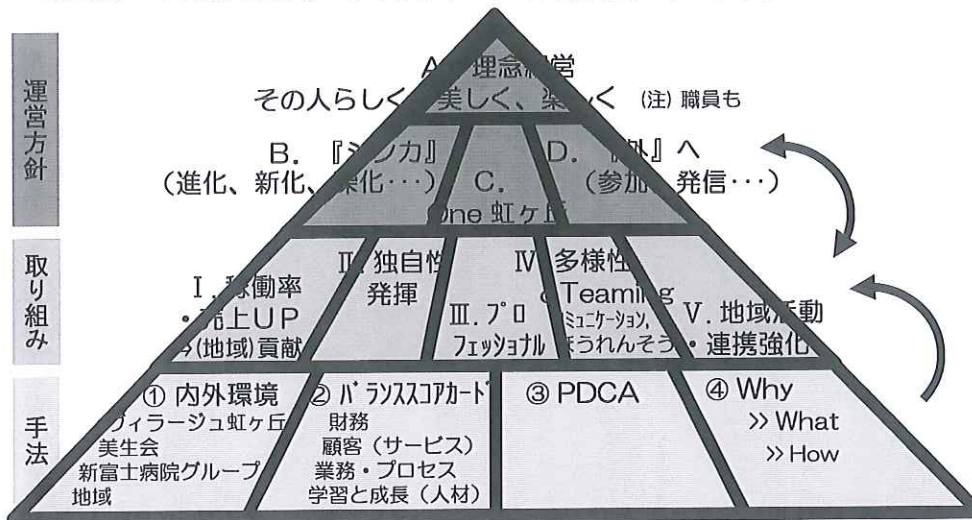
0. 施設全体運営 ～ 総括

	主な項目	次年度の方針・方策
a.	ご利用者、ご家族に感謝の言葉をいただくケースもある反面、遺恨を残してしまったケースもあり、理念の遵守には至りませんでした。	『その人らしく、美しく、楽しく』 全職員が理念を十分意識し、例外なく振る舞えるよう、評価いただける施設を目指します。
b.	介護報酬収入が予算未達で終わった一方、グループからの寄付金、支出抑制（言い換えると、予算が甘かった）により、黒字決算となりました。	次年度はさらに支出増が見込まれており、いっそうの収入増＝稼働率アップに向けたアクションを強化いたします。
c.	人員の出入りが激しく、特に流出の人数・インパクトの方が大きく、その対応に明け暮れてしまいました。 例）・看多機管理者の交代 ・短期入所での3名同時期退職	人材確保をより強化するとともに人材育成に注力し、当施設で働くことの意義、楽しさを各職員に見出していただきます。また、就労環境整備にも着手いたします。
d.	10月に川崎市による実地指導を受け、文書指導8項目、その他改善事項14点の指摘を受けました。 文書指導については、これまでに3回の改善報告を行い、まだ1点継続対応中です（川崎市と条項の解釈について交渉中。ほぼ当方の主張が通りそうです）。	指導事項につき、文書等の整備はとりあえず行いましたが、あらためてそれらを体系的に整理するとともに、各部署、各職員に周知してまいります。
e.	まだイベント中心ではありますが、一周年感謝祭、納涼祭等を中心に、地域との接点が増えて参りました。	よりいっそう接点（数）を増やし、また継続的な関係性も模索いたします。
f.	ラウンジ“集”、地域交流スペースや駐車場の開放等も地域に認知されつつあります。	左記のような地域とシェアできる施設資源は積極的に開放します。（次年度から地域貢献が社福の明確な役割として規定されています）

0. 施設全体運営

下図に示します

を平成27年度におけるヴィラージュ虹ヶ丘の施設運営方針として掲げました。全体を見ますとまだまだですが、部分的には成果を上げて来つつあることを実感できるケースもあります。そのうちのいくつかを次頁に示します。



0. 施設全体運営（途中経過の一部）

運営方針項目	途中経過
A. 理念経営	職員が理念を口にすることも珍しくなくなっており、職員採用に応募してきた方が、志望動機に挙げることもしばしばです。
C. One 虹ヶ丘	上記同様、職員が口にすることも増え、1月からは特養医務を看多機まで範疇としてもらう(新生)医務室として看護師配置を統合、ユニットリーダーも入れ替える等して、4+1ユニット体制(2Fと1F)から5ユニット体制へ。
D. 『外』へ (参加、発信...) ご利用者も、職員も	◇ 川崎市主催の囲碁・将棋大会に参加し、作品展にも出展 ◇ お花見、近所のケーキ屋さん、ジュエルミネーション@よみうりランド等々へのOuting(おでかけ企画) ◇ ヴィラージュ富士への研修見学ツアー(計3回) ◇ 岐阜県東近江市に招かれて看多機プレゼン(2/15)
V. 地域活動・連携強化	◇ 地元自治会との納涼祭共同開催(8/8) ◇ 新年の餅つき大会(近隣“おやじの会”主催; 1/24) ◇ 地域交流スペースに加えて、敷地内駐車場の貸し出し開始(対象は麻生区少年野球連盟)

次年度も、全く同じ運営方針を貫き、そのすべての構成要素につき、進捗・進展を発揮してまいります。

0. 施設全体運営～委員会

事業計画に掲げた実施項目	その結果、実績
(特養)入退去判定委員会	一時、待機者リストが枯渇してしまったが、その後は定期的開催、そのようなことの再発はなくなった。申込者リストの最新化も月次で行うべきだが、まだできていない。
リスク委員会	委員会数を減らす意味から、下記をすべてこの委員会に集約していたが、やはり盛り込み過ぎであった。 △ 事故防止検討：包括的なレビュー、チェック機能は果たせず。 ○ 感染予防対策：DVD研修、演習等を実施。インフルエンザ、ノロ等の拡散なく過ごせたが、疑わしきケース発生の一元管理に漏れ抜けがあった。 × 身体拘束廃止：拘束のケースはなかったが、委員会活動はほぼ皆無。 ○ 防災：年度途中から事故検討過多切り離して委員会活動を実施。 また、避難訓練を実施。 × 衛生：まったくカバーできず。
褥瘡委員会	年間を通じて実施。
栄養委員会	年間を通じて実施。
運営推進会議	隔月で開催。特養ご入居者のご逝去・ご退去に伴い、ご家族2名の委員が会を離れたが、補充できぬまま。年度後半になって内容を精査し、より具体的なケースを提示し、フィードバックを受けやすくなったところ、意見が闊達に出るようになった。
苦情解決委員会	開催せず。

次年度は委員会を再編し、然るべき機能を果たしつつ、職員の意識向上を図る。

0. 施設全体運営～会議

事業計画に掲げた実施項目	その結果、実績
職員会議	毎月開催するも、周知がされていないためか、出席は毎回数名どまり。全職員向けに施設の状況を説明する重要な機会との位置付けは変えず、出席を促しつつ今後も継続実施する。
部門会議	毎月開催。各部署からの報告もあらかじめ挙がって来ているが、実用的かつ有効な議論には至っておらず、情報のシェアにとどまっている。今後は報告を各自事前に読み、議論から会議をスタートさせるように改変する。
リーダー会議	毎月開催。具体的な検討項目も各人から出て来るようになり、活性化の途中。
特養会議 ⇒ 年度途中より“合同ユニット会議”と改名	これまで対象を特養に限っていたが、それを“全介護職員”に拡大。施設長（兼介護長）との直接対話の機会とした。時間設定の問題（15時～）、要員不足もあり、参加は少なく、流会にするケースも多かった。
各ユニット、部署ごとの会議	基本的に月次で行っていた。一部、議事録の発行されない部署もあった。

上表にある会議は、次年度も継続しつつ、内容の充実を図る。

また、その他の会議体もあらかじめ定義し、定期的な開催をウォッチしていく。

0. 施設全体運営 ～ 施設行事

月	施設行事	行事食
4月	お花見ドライブ（計3回）	4月14日 さくら弁当
5月	端午の節句 ～ キャンセル	5月13日 西洋料理 27日 寿司バイキング
6月25日 28日	川崎商議・オセロ大会出場（3名、うち将棋でベスト8） 一周年感謝祭	6月9日 中華風角煮丼 28日 一周年記念弁当
7月7日	七夕まつり	7月7日 七夕ながしそうめん 24日 丑の日（ひつまぶし風）
8月8日 13日、16日 24日	納涼祭（虹ヶ丘一丁目自治会と共催） 迎え火、送り火 こども文化センターのお泊まり会からの訪問、花火大会	8月8日 納涼祭 屋台メニュー
9月19日 24日～10月14日	敬老会 おでかけ企画 ～ 近隣のケーキ屋さんへ（計8回）	9月19日 敬老会 長寿御膳
10月6～8日 12日 19日～11月18日 21日	かわさき老人ホーム作品展@川崎市民プラザ 秋の大運動会 よみうりランド ジュエルミネーションツアー（全7回） ハロウィン（わくわくプラザから児童来訪）	10月20日 ドイツ料理
11月26日	やきいもの会	11月13日 生寿司バイキング
12月5日 11,16,18,22日 23日 28日	朝市 ちょっと早い年越しそばを食べよう（ユニット毎） クリスマス会 施設内忘年会	12月23日 クリスマス会 ケーキバイキング付
1月2日 適宜 24日	獅子舞（王禅寺囃子保存会） 琴平神社への初詣 虹ヶ丘一丁目町内会餅つき大会	1月1日 おせち弁当 2日 すき焼き 3日 お刺身
2月3日	節分	2月3日 節分
3月3日	ひな祭り	3月3日 ひな祭り

昨年度に引き続き、月に一度はなにかしらの行事を企画して実施いたしました。
また、外出にこだわり、適宜お連れしています。
今年度から、地元虹ヶ丘一丁目自治会とのコラボ企画（納涼祭）もスタート。

1. 各事業概況

2. 事業横断組織・機能概況

1. (1) 地域密着型特別養護老人ホーム

事業計画に掲げた目標項目	その結果、実績
(1) 稼働率96.0%を目指す 収入目標額：129百万円	実績として97.6%を達成、収入も135百万円を達成。 ※ 年間で9名のご退所があり、一時期待機者リストが枯渇 ※ 多い時で3名の同時入院、最長3カ月(その後、ご退所)
(2) ご入居者の“生活の質” の向上	全体的に取り組みは行って参りましたが、まだまだ質・量とも満足のいくものではなく、さらなる改善が必要です。 提供項目と ○ 生活の場 × 変化の提供 各評価 × 自立支援 △ 社会と関わる機会の提供
(3) ケアマネジメントの定着	ケアプランに基づいたサービス提供には至っておりません。 実施項目と × ケアプラン △ 居室担当制 各評価 △ 他職種連携
(4) (ヴィラージュ虹ヶ丘としての) ユニットケアの形成	まだ試行錯誤の段階。それでも方向性は見えつつあり、あとは方針明確化と、その定着。 実施目標と × 考え方の定着 ○ 他ユニットの理解 各評価 ○ 日々の人員配置 × 玄関開放

年度末よりユニットリーダーの上にリーダーを配置し、3ユニット間の連携、整合性改善等を目指します。

また、ケアプランに基づいたサービスの提供を図るべく、月次のモニタリング方法も次年度より変更して職員へのケアプランの浸透を図ります。

1. (1) 地域密着型特別養護老人ホーム

《稼働状況》 全 29室

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	前年度
退所	0	0	0	1	1	0	1	1	1	1	1	2	9	3
新規入所	0	0	0	1	1	0	0	1	1	2	0	3	9	29+3
入院者数	0	0	1	1	1	0	3	4	2	1	2	1	入院回数 11	11
稼働率実績	100%	100%	100%	99.0%	98.6%	100%	92.2%	90.6%	95.7%	99.6%	96.6%	99.3%	97.6%	93.5%
同 目標	96%	96%	96%	96%	96%	96%	96%	96%	96%	96%	96%	96%	96%	

《ご入居者状況》

介護度	全体	男	女
介護度5	8	2	6
介護度4	7	2	6
介護度3	11	2	8
介護度2	3	1	2
計	29	7	22
平均	3.34	3.7	3.7

年齢	全体	男	女
60～	0	0	0
70～	7	2	5
80～	9	1	8
90～	13	4	9
計	29	7	22
平均	86.7	85.3	87.1
最若齢		72	74
最高齢		94	99

入所前住所	人数	%
麻生区	26	81%
宮前区	3	9%
多摩区	1	3%
中原区	1	3%
高津区	1	3%
計	32	

《入院先》

たま日吉台病院	8
川崎みどりの病院	1
聖マリアンナ医科大学病院	1
横浜総合病院	1

1. (2)短期入所生活介護事業所

事業計画に掲げた目標項目	その結果、実績
(1)稼働率&売り上げアップ	下記指標、いずれも未達。 ・年度初めに当該業務未経験の生活相談員に交代、業務に慣れ、ご利用者、居宅との関係形成に時間を要した。
	・数字的にはたしかに未達に終わってしまったが、上記の関係形成も出来つつあり、リピート率も上がって来ている。
① 9月までに稼働率91%へ	年間最大稼働率 3月に83.6%に達したのが最大。
② 年間平均稼働率：85%	年間平均稼働率：73.5%
(2)“ひとクラス上”の環境、サービスをご提供	下記指標、いずれも未達、もしくは未実施。 ・生活相談員交代が影響。彼にこの意識はあったが、具体的かつ有効な施策展開には至らず。 ・年度内にユニットリーダーの体調不良による離脱、および彼を含む3名（二全体の半数）の退職。 ・ご退所時の忘れ物も後を絶たず、サービスの質にも課題。
① ご利用者ごとに楽しんでいただけるレクを提供	未達。 全体的なものも不足。
② リピート率：80%超	未達だが増えつつある。ロングステイを希望される方も4名ほどおり、うち1名はお亡くなりになったが、ご家族からは謝意をいただいた。
③ 年2回の顧客満足度調査にて80点以上	未実施。

年度末になっても職員数が不足しており、各自の踏ん張りで何とか持ちこたえている状態です。
一方で、要員配置に際しては若手メンバーを中心に組んでおり、能動的な動きを生みつつあります。

1. (2)短期入所生活介護事業所

《稼働状況》 全 11 室

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	昨年度
ご利用人数	28	26	24	29	37	30	29	29	30	29	30	35	356	206
ご利用日数	236	243	200	216	294	266	281	247	256	237	245	285	3,006	2,000
1日平均(人)	7.9	7.8	6.7	7.0	9.5	8.9	9.1	8.2	8.3	7.6	8.4	9.2	8.2	6.6
稼働率 実績	71.5%	71.3%	60.6%	63.3%	73.0%	80.6%	82.4%	74.8%	75.1%	69.5%	76.8%	83.6%	74.7%	60%
同 目標	70.0%	70.0%	75.0%	80.0%	85.0%	91.0%	91.0%	91.0%	91.0%	91.0%	91.0%	91.0%	85.0%	—
新規契約	6	4	3	9	5	5	1	6	4	3	6	3	55	73
累計契約数	79	83	86	95	100	105	106	112	116	119	125	128		

《ご入居者状況》

	全体	男	女
平均介護度	3.0	3.4	2.9

	全体	介護給付	予防給付
平均単価	93,226	93,543	55,873
昨年度	95,221	95,800	65,995

介護度	延人数
介護度5	474
介護度4	491
介護度3	888
介護度2	1,009
介護度1	123
要支援2	19
要支援1	2
計	3,006

お住い	人数
麻生区	55
青葉区	9
宮前区	11
町田市	9
多摩区	5
その他	3
総計	92

1. (3)看護小規模多機能型居宅介護（旧 複合型サービス）

事業計画に掲げた目標項目	その結果、実績
(1) 登録数、稼働率アップ	下記指標、いずれも未達。：人員不足により、利用者数を増やせない。 ⇒ 一方で、利用に關しての病院等からの問合せはコンスタントに寄せられるようになってきている。
① 月間登録率目標 90%(26.1名)	年度末登録率 55% (16名)
② 月間稼働率目標 宿泊：84% (7.6名) 通い：80% (14.4名)	いずれも未達。 宿泊 最大：58% (5.2名) 3月 通い 最大：58% (10.4名) 3月
※ 利用者数増大 登録：25→29名 宿泊：9名（不変） 通い：15→18名	未実施。 ・現利用者数であっても、満足度の高いor顧客ニーズに即したサービス提供ができない 例）訪問主体に移行できず、施設型サービスのまま。 “在宅”を全方向的に支援する体制には程遠い。
(2)（上記を達成するための）体制・人材、プロセス、設備等の整備	・1月に管理者が交代。一時停滞したが、内部改革の好機と捉える。 ・ユニットリーダーも特養から異動させ、体制刷新に着手。 ・管理者＋ケアマネの体制に、生活相談員（兼ケアマネ）を増強。 ・12月21日にワイズマンの看護機能ケア記録オプション導入。 ・テーブル等増強、ご利用者数増へのインフラ整備は進めている。
(3)施設内、グループ内、地域への情報発信（月1件以上、同じ内容を加工して各所へ拡散）	月一までは未達だが、情報発信には務めている。 例）岐阜県東近江市から、プレゼンの依頼（3月）

各種課題を抱えたままの運営であり、稼働率＝収益で大きく目標を達成できなかった。

介護、看護、管理（管理者、ケアマネ、相談員）のすべての機能において人員不足であり、それを解決しないことには好転しない。

1. (3)看護小規模多機能型居宅介護（旧 複合型サービス）

《稼働状況》 登録数 25名、宿泊 9名、通い 18名

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	昨年度
ご利用人数	10	11	10	10	11	14	15	17	18	17	18	16	167	111
新規登録	1	2	1	1	3	4	5	4	4	2	3	1	31	27
退所	1	2	1	2	1	4	2	3	3	2	2	1	24	18
月末登録者数	9	11	9	10	10	12	13	15	15	16	16	16		9
目標達成率	123.5%	135.8%	92.6%	96.3%	67.9%	68.8%	60.2%	61.7%	57.5%	61.3%	61.3%	61.1%	70.4%	
通い	198	225	205	228	247	234	256	296	300	266	279	322	3,057	2,055
(1日平均)	6.6	7.2	6.8	7.3	7.9	7.8	8.2	9.8	9.6	8.5	9.6	10.3	8.4	6.8
目標達成率	173.4%	190.7%	128.3%	107.4%	95.2%	93.2%	72.3%	86.4%	84.8%	75.4%	84.3%	91.0%	95.4%	38%
泊まり	86	124	116	135	146	113	110	123	130	131	122	161	1,487	1,211
(1日平均)	2.8	4	3.8	4.3	4.7	3.7	3.5	4.1	4.1	4.3	4.2	5.1	4.1	4.0
目標達成率	85.2%	118.9%	83.6%	74.0%	61.4%	52.7%	46.9%	54.2%	55.4%	55.8%	55.6%	68.6%	63.4%	44%

《ご利用者状況》

介護度	全体	男	女
介護度5	3	1	2
介護度4	3	1	2
介護度3	3	1	2
介護度2	4	2	2
介護度1	3	1	2
計	16	6	10

年齢	全体
50～	0
60～	1
70～	4
80～	9
90～	2
100～	0
計	16

お住まい	人数	%
麻生区	13	82%
多摩区	2	12%
高津区	0	0%
宮前区	1	6%
計	16	100%

1. (4)訪問看護ステーション

事業計画に掲げた目標項目	その結果、実績
(1)年度末までに規模3倍化 契約数：15 → 45件 延べ訪問件数：100 → 300件/月 看護職員数：2 → 4名	3倍には至らなかったが、約2.3倍にはなった（年間延べ訪問件数比）。営業上の問題と言うよりは、看護師の人数に依存（採用が追いつかないため、利用者を増やせない）。 契約数：19 → 39件 延べ訪問件数：100 → 180件/月 看護職員数：2 → 3.3名
(2)特に地域（虹ヶ丘、王禅寺、麻生、他）に根ざした活動を展開し、すべての指標において“地域率”を70%以上とする。	指標自体があいまいなものであったし、地域を意識した活動をしていたことに間違いはないが、さらなる地域の近隣化にはまだ至っていない。
(3)内部プロセスの見直し・整備を進め、内部的に監査項目をすべてクリアさせる。	要員も2名増え、適宜プロセスの見直しは実施しているが、まだまだ非効率である点等々あるとの認識。継続検討。一部、事務的業務を事務員に委託し、
(4)施設外での活動（各種団体の集会での講演）、もしくは施設発の活動（健康相談や介護技術紹介等の便協会）を展開する。（年度内に6件以上＝2か月に1件以上）	一周年感謝祭等でブースを設けた程度にとどまる。定期的な発信には至っていない。 虹ヶ丘ティータイム、団地カフェ等、外部の催しにも数回参加したが、時間が取れないために継続できず。
(5)顧客満足度調査の実施（ご利用者ごと年1回以上）	未実施

看護師不足、採用が進まない限りにおいては利用者も増やせず、といった状況が続く。
抜本的な採用戦略を見直し、対策を打って行くこととする。

1. (4)訪問看護ステーション

《稼働状況》

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	昨年度
目標契約数	18	21	24	27	30	33	36	39	42	45	48	51	414	
契約数	22	19	16	25	32	29	35	36	35	37	39	39	364	19
新規契約	3	3	1	8	3	4	8	5	1	3	3	3	45	36
終了	3	1	0	1	2	1	3	4	2	1	1	1	20	17
訪問(30分)	9	18	24	30	54	48	58	55	52	46	56	57	507	159
訪問(60分)	59	54	41	61	55	68	72	59	66	63	85	110	793	234
訪問(医療保険)	56	47	31	30	30	26	40	60	56	47	29	55	507	250
延べ訪問回数	124	119	96	121	139	142	170	174	174	156	170	222	1,807	644

《ご利用者状況》

介護度	全体
介護度5	6
介護度4	3
介護度3	5
介護度2	7
介護度1	4
要支援2	3
(医療保険)	6
計	39

年齢	全体
40～	0
50～	0
60～	4
70～	8
80～	19
90～	8
100～	0
計	39

お住まい	人数	%
麻生区	33	84
宮前区	3	8
青葉区	3	8
多摩市	0	0
計	39	

2. (1) 栄養科

事業計画に掲げた目標項目	その結果、実績
(1) 人員の補充と業務効率化に基づく調理業務の進化	時間は要したが、年度内に要員が確保出来た。 管理栄養士が2名体制となり、従来の管理者であった大澤管理栄養士は美生会全体の統括担当となり、当施設の栄養科は安富管理栄養士の配下に。 調理業務の進化も徐々に進んでいる。
(2) 栄養ケアマネジメントの精度、濃度等の向上	施設ケアマネの実施するケアマネジメントのサイクルは半年であるのに対し、栄養ケアマネジメントは四半期が義務付けられている。そのギャップ故、不明確なプロセスでこれまで評価が行われていたが、年度末にそれを管理栄養士とケアマネ間で調整、必ず四半期で行うプロセスに整備した。 内容評価はこれから。
(3) グループ内、特にヴィラーシュ川崎との連携強化	要員の行き来等、適宜行っている。

要員不足の中、滞りなく食事の提供が行われたことは評価したい。

日常的な食事の提供にとどまらず、月次での行事食の企画・提供にも力を入れ、特にパフォーマンスも含めた(≡ 顔の見える)サービス提供に腐心した。

年が変わるころより体制(トップ)を変更、年度内の定着には至らず。

2. (1) 栄養科

今年度も工夫を凝らし、パフォーマンスカモアップさせて、安全で、おいしく、“楽しい”お食事の提供、そして栄養面でのケアを提供してまいりました。

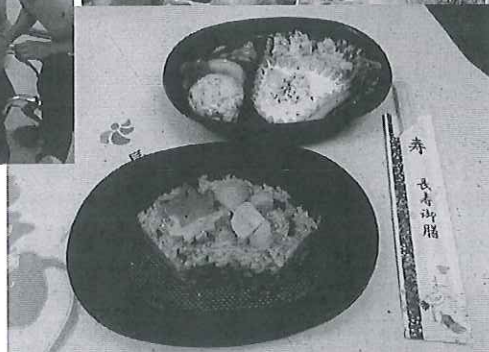


行事食 (七夕 ながしそうめん)
※ そうめん流路も栄養科職員の手作り

行事食 (敬老会長寿御膳)
※ 箸袋も手作り

行事食 (生寿司バイキング)

※ 握っているのは調理員たち



2. (2) 医務室

- a. 年度初めには、2F(特養と短期入所)と1F(看多機)はまったく別のオペレーションとしていたが、年の明けたころよりこれまでの特養医務と看多機看護師とを統合、施設内の5ユニット全てを内勤看護師が担当する体制とした。
- b. パート職員の入職等あったが、短期間で退職等あり、人員不足が続いている。
- c. 介護への教育、アドバイス等実施するも、受け側の意識改革なしでは、のれんに腕押し状態。次年度に向け、啓蒙体制確立が必要。一方で、意識向上の兆しも見られてきている。
- d. 上記の結果として、全体的に認知機能の低下、ADL低下、口腔状態悪化が著明。これもケアマネ、施設長とも連携して改善急務。
- e. 行事、外出等には原則として必ず看護師が同行し、不測の事態に備えていた(リスク管理の徹底)。
- f. 感染症研修および演習を実施。罹患報告時の管理も行った。
- g. 2Fバルコニーの菜園化等、施設環境整備にも積極的に取り組んだ。

2. (3) 事務

事業計画に掲げた目標項目	その結果、実績
(1) 人総経各業務における事前の計画性と数値化（≒見える化、特に財務系）	財務系は、収入、支出とも見える化（テンプレート・フォーマット確定）を実施、数字は追えるようになってきたが、まだ数字の整うタイミングが翌々月以降であり、その前倒しが必要（
(2) 各事業所の事務業務“支援”から管理機能“遂行”へ（立ち位置の変更）	全般的に未だ支援どまり。工数不足と主導社不在が要因。一方で、訪看STの業務支援等では、能動的な管理も一部出来つつある。
(3) 基本的な人総経業務以外のサービス強化（例：マーケティング、広報、IT化等）	以下のような状況。 △マーケティング：短期入所、訪看、看多機の各サービスで若干実施するも、その深掘りは出来ず。 ◎広報：ブログ更新、ヴィラージュ虹ヶ丘だよりの月次発刊、施設パンフレットを開所以来初めて刷新。ホームページのリニューアルは次年度に持越し。 ○IT化：グループウェアを導入し、スケジュール管理、回覧のレスパーパー化（紙も併存）等をスタートさせたが、利用は一部にとどまっている。さらなるリテラシー向上策実施が必須。
(4) 美生会内、ヴィラージュ川崎とのプロセス整合	まったくできていない（例：給与計算のための勤務届チェックプロセス）。すべて次年度に先送り。

4つの事業を展開する当施設を束ねる(One虹ヶ丘の実現)には、事業所横断的位置づけの事務の役割が重要である。事務固有の要務を担うことはもちろんのこと、各事業に目を向け、その支援の目をさらに強化していく。

3. その他の活動、状況等

3. (1) ボランティア受け入れ

然るべき方面での積極的なアプローチもしていないためご登録数も伸びず、主に以下の皆様に継続的なご支援をいただいています。

- ✓ ラウンジ“集”： 現在、29名の登録があり、シフトを組んで月曜日定休日、火曜～日曜の10時～16時半での営業を担っていただいています。
- ✓ アニマルセラピー： 近隣の方々のペット犬とその飼い主さんたちにご協力いただいています。 月1回来ていただいています、大人気です。
- ✓ 傾聴： 月2回のペースで訪問いただいています。
- ✓ 絵の貸出し： 上記傾聴の方が描かれた絵画7点を飾らせていただいています。
- ✓ 回： 麻生養護学校の美術クラブの方の作品を、2カ月に一度の頻度で交換しつつ飾らせていただいています。 夏からは医務室にも。 先生曰く『描いている生徒の励みになっている』とのこと。
- ✓ お囃子（獅子舞）： お正月に施設に来ていただきました。
- ✓ 納涼祭： 地元：虹ヶ丘一丁目自治会との共催にて開催、盆踊りに関連するやぐら、ちょうちん、太鼓の叩き手、踊り手等の調達と設置、運営を一手に担っていただき、縁日の売り子にもご協力いただきました。

その他、ご利用者（特養、短期入所、看多機）のご家族による歌や演奏、クラフトの手ほどき等でご協力いただく機会が増えて来ました。

あるご家族からピアノのご寄付もいただき、地域交流スペースにて利用させていただいています。

3. (2)ご面会

- ✓ 施設では、朝9時～夕方8時まで年中無休で面会に対応しています。
- ✓ “地域密着型”を標榜しているからではないですが、かなりの頻度で面会に来訪いただいています。
- ✓ 特養、短期入所、看多機のいずれでもほぼ毎日のように面会に来られるご家族もいらっしゃいます。

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均	昨年度
総数	ご家族数	251	256	246	231	270	225	209	223	216	243	269	287	2,926	244	267
	人数	341	354	325	311	387	306	279	275	289	356	305	368	3,896	325	393
1日平均	ご家族数	8.4	8.3	8.2	7.5	8.7	7.5	6.7	7.4	7.0	7.8	9.3	9.3	8.0	8.0	8.8
	人数	11.4	11.4	10.8	10.0	12.5	10.2	9.0	9.2	9.3	11.5	10.5	11.9	10.6	10.6	12.9

今後は、来訪されるご家族が、

- ・長居できる
- ・ご利用者との時間を楽しむことが出来る

といった環境の整備および提供にも心掛けてまいります。

3. (3)広報活動

ブログ



美生会

新パンフレット



昨年度に引き続き、
 ✓ 適宜ブログの更新
 ✓ 月刊広報誌の発行
 を継続しております。

今年度は、開設前に作成したままであった施設のパンフレットを刷新、
 ✓ 地域に開かれた施設
 ✓ 医療に強い施設
 の2点に焦点を当てた内容としました。
 ホームページの刷新も準備中ですが、年度内には間に合わず、次年度早々のリリースを目指しています。

これら広報活動につきましては、これまででは事務員だけで行っておりましたが、次年度からは広報委員会を立ち上げ、施設全体活動としてまいります。



月刊広報誌

3. (4) 地域連携

今年度は6月の一周年感謝祭、8月の納涼祭の開催に際し、地元：虹ヶ丘一丁目自治会のみなさんに多大なるご協力をいただきました。

特に納涼祭は、協賛のカたちを取らせていただき、次年度以降も地域の催しとして継続的に開催して参ります。

ヴィラー・ジュ・虹ヶ丘 一周年感謝祭
イベント予定表
開催日：2015年6月28日(日)

時間	内容
9:30	開会式・挨拶
10:00	地域交流スペース
12:00	ランチタイム
13:00	フリーマーケット
17:00	盆踊り大会
19:00	花火大会
20:00	閉会式

※雨天時は繰り上げ開催、盆踊り・花火大会は中止となります。

また、今後はこのようなイベントでのお付き合いだけでなく、恒常的な“ご近所づきあい”へと発展させてまいります。



虹ヶ丘一丁目自治会 協賛
特別協賛 老人ホーム
ヴィラー・ジュ・虹ヶ丘

納涼祭

一周年感謝祭につき、夏の夕べの催しを企画いたしました。
今回は虹ヶ丘一丁目自治会さんと協賛です。
みなさまのお越しをお待ちしております。

平成27年 8月 8日(土) 16時～20時頃
於 ヴィラー・ジュ・虹ヶ丘 駐車場 特設会場

16時～ 売切れまで 縁日(模擬店、ゲーム)
17時半～19時半 盆踊り大会
19時半～20時 花火大会

雨天時は繰り上げ開催、盆踊り・花火大会は中止となります。

場所 川崎市麻生区虹ヶ丘1-22-1-2
虹ヶ丘公園・虹ヶ丘小学校・虹ヶ丘こども文化センター間
お問合せ 電話：044-712-5511
担当：鈴木

3. (5) 地域交流スペースおよび施設駐車場の地域への開放

地域交流スペースのご利用は、昨年度比で約2倍に伸びております。これまで積極的なPR活動を行って来ませんでしたが、口コミ等での問い合わせも増えて来ており、地域におけるサークル的な活動のための場として次第に周知されてきていると実感しています。

《ご利用回数》 (施設or新富士病院グループでの利用を除く)

	年間 利用回数	1ヶ月平均 利用回数
今年度 実績	167回	13.9回
昨年度 実績 (8か月)	61回	7.6回

今年度下期より、地域交流スペースの貸し出しのほか、施設内駐車場の貸し出しも開始いたしました(こちらも事前申請を前提としておりますが、利用料は徴収しておりません)。こちらは、お隣の野球場を使用する麻生区少年野球連盟が、これまで虹ヶ丘小学校の校庭を駐車場として借りていたものが使用できなくなるということから、麻生区、川崎市を通して要請のあった件に端を発しています。

駐車場には他にもニーズがあると伺っており、今後調整を図ってまいります。

3. (6)ラウンジ“集(つどい)”

- ✓ 地元のボランティアさん29名で運営
- ✓ 月曜を除く毎日10時～16時オープン
- ✓ 毎月第一、第三土曜日に“喫茶の日”として施設ご利用者に対して無料開放(通常は1回の利用料100円)
- ✓ 開設時から保健所に指摘を受けていた設備整備も、50万円超の改修を行うことで無事解決、今では営業許可も下り、喫茶以外の飲食物提供も可能となりました。(当該投資は約5年を掛けて売上にて償還予定)
- ✓ “集”のご利用からの縁で、ボランティア活動に展開するケース(ドッグセラピー等)、あるいはご利用者のご家族と地域のカメラ少年を中心とした個展の開催など、さまざまな地域とのつながりの拠点となっておりま。
- ✓ この取り組みは、視察に来られた川崎市健康福祉局長からも謝意をいただきました。

《ご利用者数(売上)》

	年間 利用者数	1日平均 利用者数	単価
今年度 実績	5,003人	16人	67.5円
昨年度 実績 (8か月)	3,552人	17人	56.0円

***** ラウンジ『つどい』 *****

ラウンジ『つどい』は、「ヴィラージュ虹ヶ丘」内の地域交流スペースを活用するために誕生しました。地域のボランティアの皆さんで運営しています。今、地域コミュニティがいかに大切か言われています。

どなたでもいつでも気軽に立ち寄り、おしゃべりが出来る「憩いとふれあいの場」です。

利用料 100 円で、コーヒー、紅茶、緑茶などがお楽しみいただけます。

■営業時間: 3月～11月 10時～16時30分
12月～2月 10時～16時

■定休日: 月曜日 (※他に不定休あり)





ヴィラージュ虹ヶ丘の事業報告は以上です

